

望ましい人間関係を育むために

～コミュニケーションに関するアンケート結果から見てきたこと～

栃木県総合教育センターでは、児童生徒の望ましい人間関係を育むための働きかけの方向性を探るために、県内の小学校4・6年生、中学校1・3年生の児童生徒約1,600人を抽出し、「子どもたちのコミュニケーションに関するアンケート」を行いました。本調査研究では、本県の児童生徒の人間関係及び人間関係づくりに関する意識や行動を把握し、望ましい人間関係を育むための働きかけについて考察しました。また、平成19年度に実施した調査との比較を行いました。このパンフレットでは、考察した具体的な手立ての例を中心に紹介します。

次のような働きかけが大切です

学級担任・副担任、学年主任、特別活動主任、委員会担当、管理職等それぞれの立場から、児童生徒の実態に応じて次のような働きかけをするための具体的な手立てを考え、実践することが大切です。

その1 相手の話を聞くことの大切さを実感させましょう

3ページ

その2 友達への貢献意欲を育みましょう

4ページ

その3 感謝の気持ちを表現させましょう

5ページ

その4 異年齢間の交流の機会を設けましょう

6ページ

その5 あいさつの大切さを実感させましょう

7ページ

○調査の概要

- ◆調査の名称：子どもたちのコミュニケーションに関するアンケート
- ◆対象者：県内の小学校4・6年生、中学校1・3年生から抽出
- ◆回答人数：1,578人（児童801人、生徒777人）
- ◆質問構成：望ましい人間関係を構築している状況に関する質問（17問）
他者との関わりに関する質問（30問）

- ◆調査時期：平成29年6月中旬～下旬
- ◆調査方法：質問紙調査

○分析について

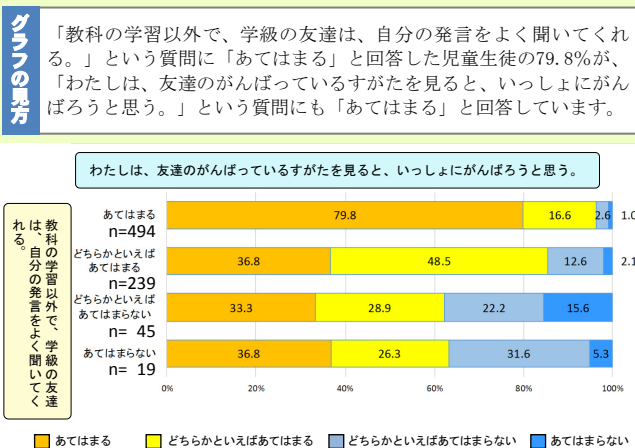
他者との関わりに関する質問（30問）

相関を分析し、やや強い相関*が見られた「他者との関わりに関する質問」の内容から、働きかけの方向性を探りました。

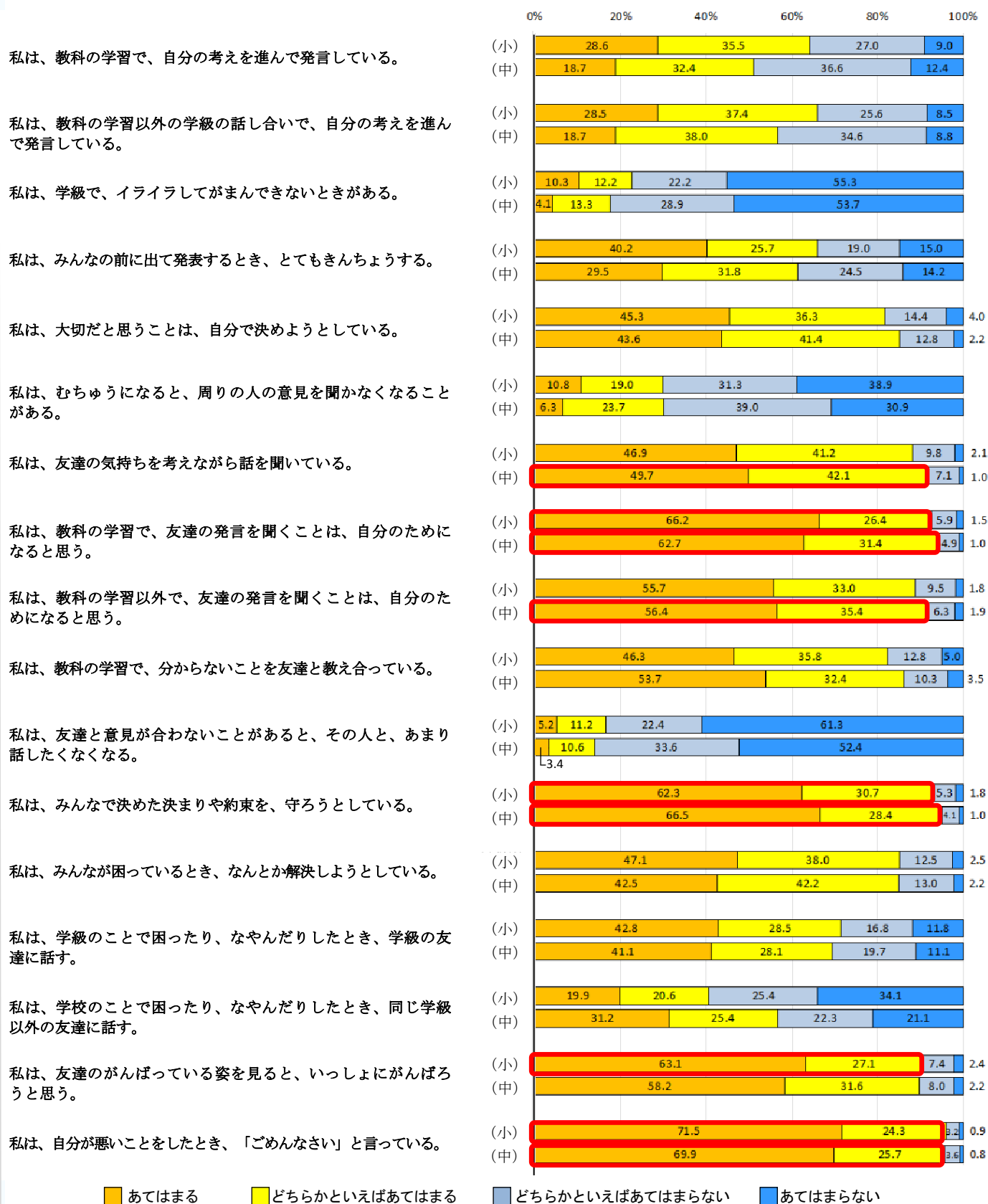
望ましい人間関係を構築している状況に関する質問（17問）

*ここでは、 $r > 0.4$ 、 $p < 0.01$ [r ：相関係数、 p ：有意確率]

このパンフレットでは、やや強い正の相関が見られた質問の主なものを、下のようなグラフで示しています。



「望ましい人間関係を構築している状況に関する質問」(17問)に対する 児童生徒の回答集計結果



『私は、教科の学習で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。』『私は、みんなで決めた決まりや約束を、守ろうとしている。』『私は、自分が悪いことをしたとき、「ごめんなさい」と言っている。』という質問では、小・中学校ともに肯定的回答の割合が9割を超えています。しかし、『私は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。』や『教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。』という質問では、他の質問と比べると、肯定的回答の割合がやや低くなっています。『私は、学校のことで困ったり、なやんだりしたとき、同じ学級以外の友達に話す。』という質問では、中学校の肯定的回答の割合が小学校に比べて高いのは、上学年になるほど交友関係が広がっていることによると考えられます。

その1 相手の話を聞くことの大切さを実感させましょう

小学校

教科の学習以外で、学級の友達は、自分の発言をよく聞いてくれる。

他者との関わりに関する質問

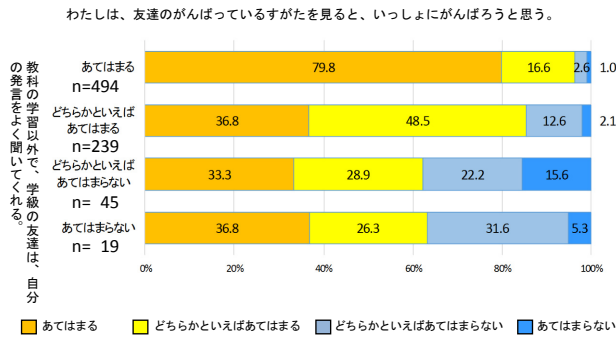


相関あり*

わたしは、友達のがんばっているすがたを見ると、いっしょにがんばろうと思う。

望ましい人間関係を構築している状況に関する質問

*ここでは「やや強い正の相関」を指す。



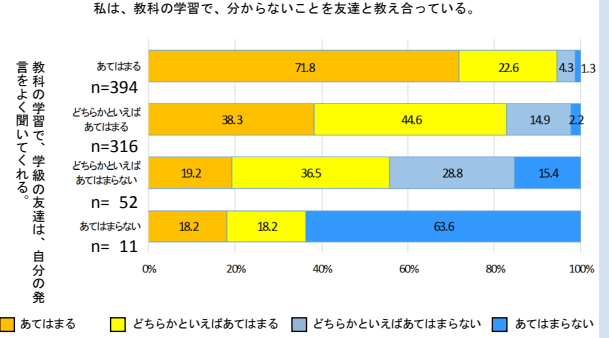
中学校

教科の学習で、学級の友達は、自分の発言をよく聞いてくれる。



相関あり

私は、教科の学習で、分からないことを友達と教え合っている。



自分の発言を友達によく聞いてもらっている児童生徒は、共にがんばろうとする気持ちをもって生活しようとする傾向が見られます。



例えば、こんな手立てが考えられます



TP0を意識した聞き方・話し方を身に付けさせましょう

時間、場所、場合を踏まえた聞き方・話し方のルールを明確に示したり、教師が模範を示したりします。そうすることで、相手が話しやすい聞き方ができるようになったり、疑問点を質問することができるようになったりして、対話的な学びが円滑に進むようになります。

子どもが対話をしたくなるような工夫をしましょう

授業中、子どもが「聞きたい」「もっと知りたい」「伝えたい」という気持ちをもって対話できるようにすることが大切です。例えば、提示する課題の内容や難易度を吟味したり、多様な考えが引き出される課題や発問となるように工夫したりします。

子どもの「振り返り」を生かしましょう

授業や行事の振り返りを行う際、友達との関わりについて感じたことを書かせます。その振り返りを紹介する際、自分が書いた振り返りの内容と友達の内容を比べながら聞くよう促します。そうすることで、子どもに「○○さんは自分とは違う見方をされていて、参考になるな。」などといった気付きが生まれます。

ぼくは、こんな式を立てて解いてみたよ。他の方法があったら教えてほしいな。

ぼくは、図をかいて考えてみたよ。



その2 友達への貢献意欲を育みましょう

小学校

わたしは、学級の友達の手伝いをする。



相関あり

わたしは、友達のがんばっているすがたを見ると、いっしょにがんばろうと思う。

他者との関わりに関する質問

望ましい人間関係を構築している状況に関する質問

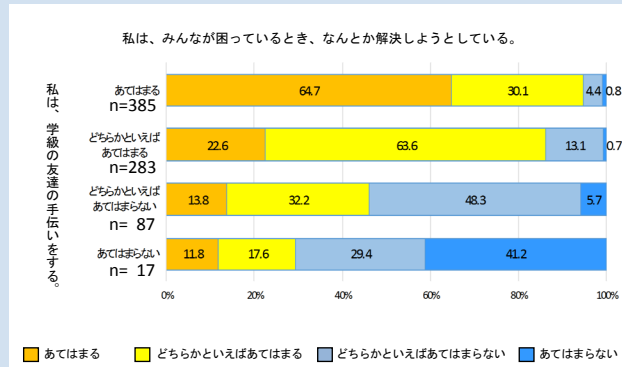
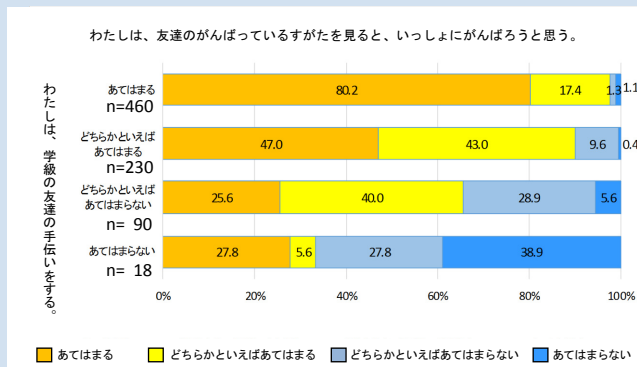
中学校

私は、学級の友達の手伝いをする。



相関あり

私は、みんなが困っているとき、なんとか解決しようとしている。



学校で、友達のために行動している児童生徒は、互いに高め合う意識をもって生活しようとする傾向が見られます。



例えば、こんな手立てが考えられます

周囲の状況に目を向けさせましょう

清掃活動や係活動などで、自分の分担の仕事が終わった子どもに対して、教師が「他に終わっていない友達はいないかな?」「他にやっておいた方がよいと思うことはないかな?」などの声かけを行います。

認め合う場面を設定しましょう

誰かのために行動したり協力したりしていた友達にメッセージを書くなど、子ども同士が認め合う場面を設定します。自分の行動が認められることで、貢献することができた満足感を得ることができます。

子どもを認め声をかけましょう

自主的に手伝いをしている子どもを見かけた際には、その場で認め声をかけます。その際、自分がしたことが他者のためになっているということを実感できるような声かけを行います。

あなたが手伝ってくれたおかげで、みんなが学校で気持ちよく過ごせるわ。

人の役に立つことができてよかったわ。うれしい!



教職員のアンケート結果より

この調査では、小学校、中学校の教職員にもアンケートを行いました。担任の先生方の回答結果からは、「児童（生徒）は、学級の友達の手伝いを、自分からやっている。」という質問と「みんなが困っているとき、なんとか解決しようとする児童（生徒）がいる。」という質問の間にやや強い正の相関が見られました。担任の先生方の回答結果からも、学校で、友達のために行動している児童生徒は、互いに高め合う意識をもって生活しようとする傾向が見られることが裏付けられました。これまでも、児童生徒が互いに高め合う意識をもって行動することができるように、様々な支援が行われてきました。今後も継続して取り組んでいくことが大切です。

その3 感謝の気持ちを表現させましょう

小学校

わたしは、学級の友達から「ありがとう」と言われる。

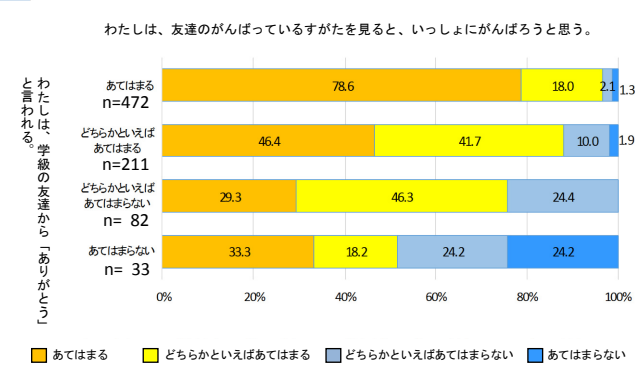
他者との関わりに関する質問



相関あり

わたしは、友達のがんばっているすがたを見ると、いっしょにがんばろうと思う。

望ましい人間関係を構築している状況に関する質問



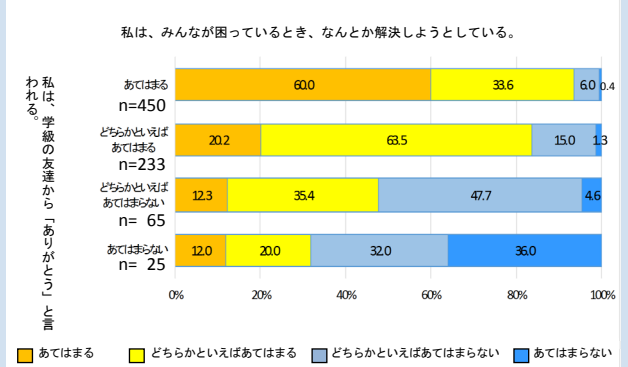
中学校

私は、学級の友達から「ありがとう」と言われる。



相関あり

私は、みんなが困っているとき、なんとか解決しようとしている。



友達から「ありがとう」と感謝の言葉を伝えられている児童生徒は、互いに高め合う意識をもって生活しようとする傾向が見られます。

例えば、こんな手立てが考えられます



「ありがとう」と自然に伝えられる雰囲気をつくりましょう

普段から自然に「ありがとう」と言える雰囲気づくりをします。例えば、委員会活動を活性化させ、毎月の生活目標やスローガンに「感謝」を取り上げたり、ありがとう運動を実施したりします。

地域への情報発信に努めましょう

学校の教育活動に協力いただいた地域の方々への感謝の気持ちを、学校便りや学校のホームページなどで伝えるようにします。そうすることで、子どもは、教師が感謝の気持ちを伝えていることに気付くことができます。

道徳科の授業で深めましょう

道徳科の授業で「親切、思いやり」「思いやり、感謝」「礼儀」を扱う際、感謝することによりよい人間関係が育まれることを、子ども自身が感じられるように、授業展開を工夫します。

「ありがとう」と笑顔で言ってもらえると、とてもうれしくなります。私も、誰かに何かをしてもらったら、「ありがとう」という言葉を伝えられるようになりたいです。



栃木県道徳教育郷土資料集「ふるさと とちぎの心」に、心温まる教材があります。道徳科の授業で活用してください。

- 小学校高学年編
 - 3. いつでもどこでも (B 礼儀)
 - 4. 心に灯をともした鉢の木ー鉢の木物語ー (B 親切、思いやり)
- 中学校編
 - 5. 心をかたちに (B 礼儀)
 - 7. 「三. 一一震災」を経験して (B 思いやり、感謝)



その4 異年齢間の交流の機会を設けましょう

小学校

他の学年の人との活動では、こまっている人がいると、自然に声をかけあっている。

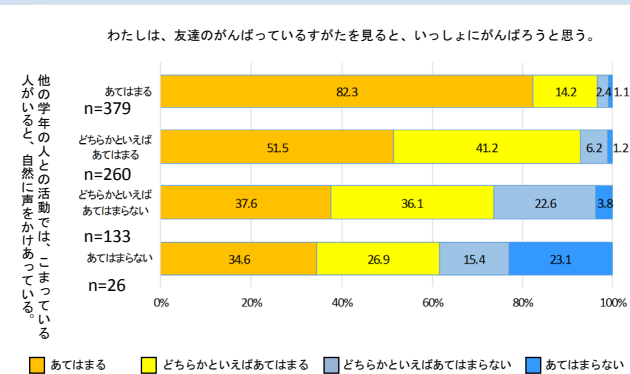
他者との関わりに関する質問



相関あり

わたしは、友達のがんばっているすがたを見ると、いっしょにがんばろうと思う。

望ましい人間関係を構築している状況に関する質問



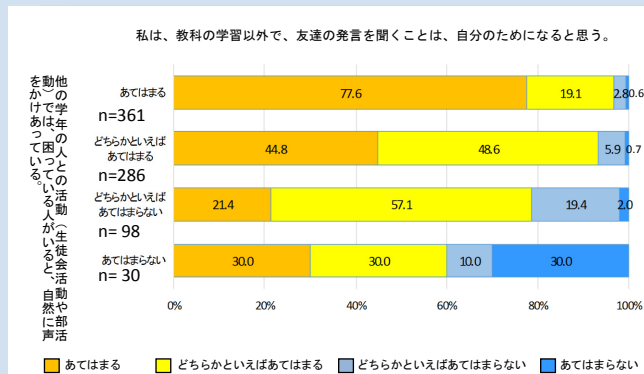
中学校

他の学年の人との活動（生徒会活動や部活動）では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。



相関あり

私は、教科の学習以外で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。



同年齢だけでなく異年齢の子どもと交流する中で、互いに声をかけ合ったり助け合ったりしている児童生徒は、友達のがんばりを励みとして、前向きに生活しようとする傾向が見られます。

例えば、こんな手立てが考えられます



縦割りでの活動を取り入れましょう

運動会などの行事で縦割りによる活動を取り入れたり、清掃活動で縦割り班を取り入れたりします。その際、上学年の子どもが下学年の子どもをリードして活動することができるように、教師は子どもの主体的な活動を見守りつつ、適宜助言を行います。

地域の特性を生かしましょう

総合的な学習の時間で、地域の特性に応じて、幼児・児童・生徒・高齢者が交流する必要がある単元を設定します。交流する活動として、福祉施設や幼稚園を訪問することが考えられます。

小・中合同で行う活動を取り入れましょう

奉仕活動など、小学校と中学校が連携して行う活動を取り入れます。その際、学校や地域の実態に応じて、どのような活動が実施可能であるかを、小学生代表と中学生代表に話し合わせるなど、子どもの主体的な活動にすることが大切です。

異年齢間の交流を取り入れる上で大切なこと

異年齢間の交流を通して、下学年の子どもは上学年の子どもを手本として育ち、上学年としての能力を徐々に身に付けていきます。上学年の子どもは下学年の子どもの手本となることで、責任ある立場としての自覚や自信をもつことができます。

この活動を取り入れる上で大切なことは、教師主導ではなく、子どもが主体的に活動できるようにすることです。そのためには、事前指導においては、活動の計画や活動上の留意点、下学年の子どもへの接し方や言葉遣い等を考えさせることが大切です。また、事後指導においては、自分の活動を振り返る時間を設定し、場や相手に応じた適切な言動について考えさせることが大切です。



その5 あいさつの大切さを実感させましょう

小学校

わたしは、家の周りや学校の周りの人にあいさつをしている。



相関あり

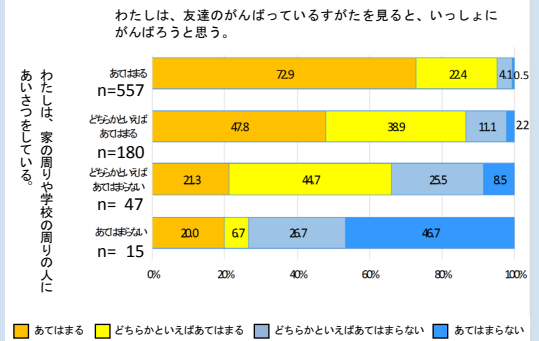
わたしは、友達のがんばっているすがたを見ると、いっしょにがんばろうと思う。

他者との関わりに関する質問

望ましい人間関係を構築している状況に関する質問



あいさつを積極的にしている児童は、友達のがんばりを励みに自分自身も向上しようと前向きに生活しようとする傾向が見られます。



例えば、こんな手立てが考えられます



地域の人の声を紹介しましょう

全校朝会や学年集会、朝の会や帰りの会などに、地域の人からの「毎朝気持ちのよいあいさつをする子がいますよ。」といった声を、子どもに伝える機会をもちます。そうすることで、子どもはあいさつのすばらしさを実感します。また、地域の人から認められていることを実感することにもつながります。

あいさつについて深く考えさせましょう

委員会活動などであいさつ運動を行う際、心を込めてあいさつするよう促します。また、あいさつ運動の前後の委員会の時間に、気持ちのよいあいさつとはどのようなことなのかを考えさせるようにします。



別の視点からの手立ての例

このパンフレットでは、「他者との関わりに関する質問」を基に、望ましい人間関係を育むための手立てについて考察したことを紹介しています。加えてここでは、3～7ページに掲載した「望ましい人間関係を構築している状況に関する質問」で示した児童生徒の姿に、直接つながる手立ての例を紹介します。

「私は、教科の学習以外で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。」

学級活動で、学級や学校における生活上の諸問題について解決するための話し合い活動を行う際、建設的な意見を述べるように伝えます。

「私は、教科の学習で、分からないことを友達と教え合っている。」

教え合ったり他者の意見を聞いたりすることで解決できるように、課題の難易度を十分に検討します。

「私は、みんなが困っているとき、何とか解決しようとしている。」

朝の会や帰りの会、学級活動、道徳科の授業などで、自分が困ったり悩んだりした時に人に助けてもらった経験を思い出させます。

「私は、友達のがんばっている姿を見ると、いっしょにがんばろうと思う。」

学校行事に向けた話し合いで、学級としての目標を決めさせ、全員で共有した上で活動に取り組ませます。



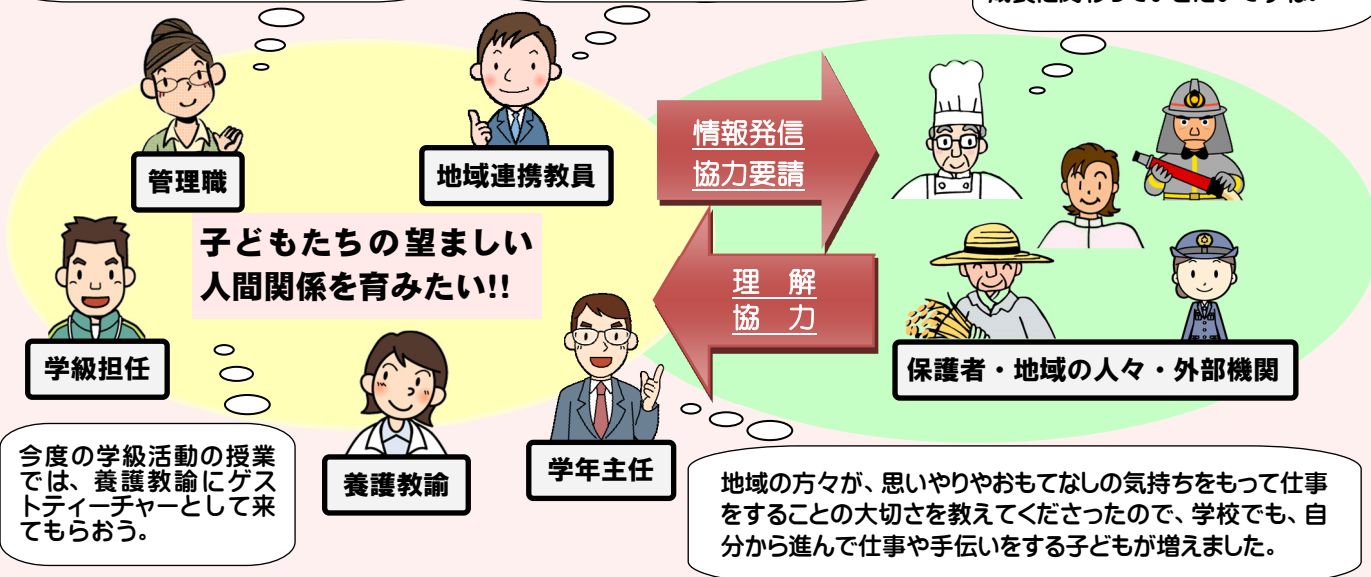
校内外の人的資源を有効に活用しましょう

異年齢間の交流を教育活動に取り入れたり地域との連携を図ったりする際には、人的資源の活用が重要になります。校内においては教職員、校外においては保護者・地域の人々・外部機関などがそれに当たります。教育活動に必要な人的資源を効果的に活用していきましょう。

子どもの心を育てるには、多くの先生方はもちろん、様々な人との交流が欠かせないわ。地域の協力を得るためにも、本校の教育活動を発信していきましょう。

学校と地域が協力できるように、依頼内容を具体化したり、協力者のリストアップをしたりしておこう。

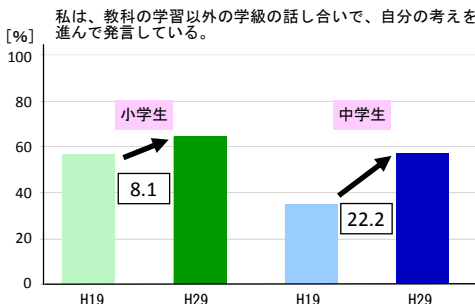
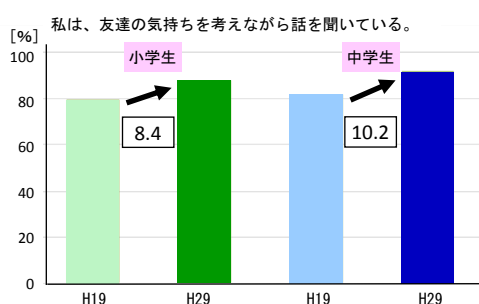
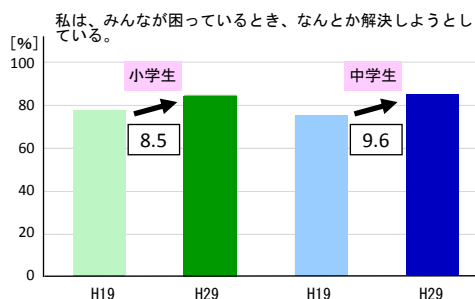
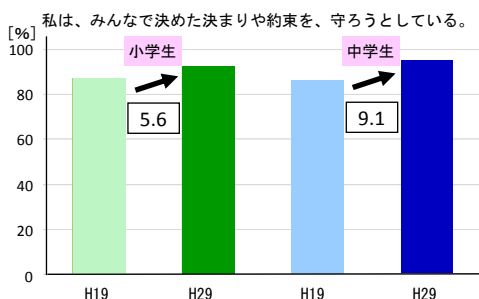
地域の学校の子どもと接する機会がもてることは、うれしいことです。学校と地域、みんなで一緒に子どもの成長に関わっていきたいですね。



10年前と今回の調査結果の比較

「望ましい人間関係を構築している状況に関する質問」への肯定的回答の割合について、10年前と今回の結果を比較しました。多くの質問で、10年前よりも肯定的回答の割合が伸びましたが、ここでは、有意な差*が見られたもののうち、平均の差が大きかった四つの質問についてグラフで示します。

*独立した2群の平均の差を検定し、その差が明らかであるもの。[$p < 0.01$ p : 有意確率]



「私は、教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。」という質問については、他の質問より肯定的回答の割合が低い結果でした(p. 2参照)。しかし、10年前の結果と比較すると、小中学生ともに伸びていることが分かります。各学校でこれまでにやってきた発言しやすい雰囲気づくりや学級づくりの取組が、このような変化をもたらしたのではないかと考えられます。これからも継続して取り組んでいきましょう。



栃木県総合教育センター
 <問合せ先: 研究調査部>
 TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
 E-mail: kenkyu-c@tochigi-edu.ed.jp

Webサイトを御覧ください。

本パンフレット、質問紙、報告書を掲載しています。
http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h29_ningenkankei/

VERY
GOOD
LOCAL
とちぎ